古典を読むための

文法早わかり辞典

國文學第二十四卷十二号改裝版

古典を読むための

文法早わかり辞典

國文學第二十四卷十二号改裝版

學燈社

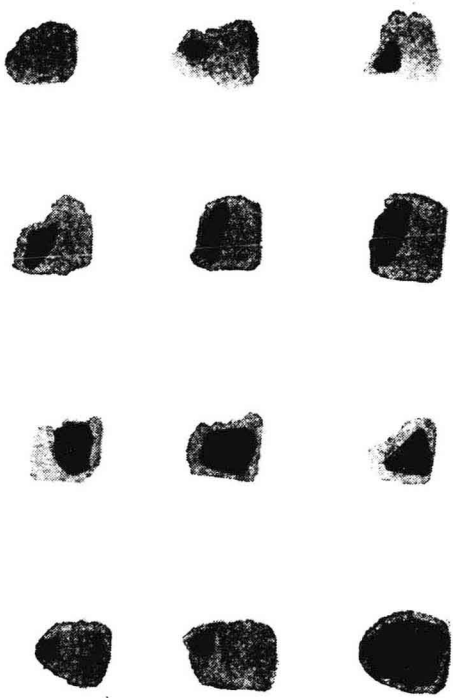
古典を読むための
文法早わかり辞典

文語文法から古典文法へ……松村　明　16
文法事項……塚原鉄雄　22
名詞……堀内武雄　42
代名詞……同　45
副詞……山口明穂　49
連体詞……桜井光昭　61
接続詞……同　65
感動詞……同　69

項目一覧 6
凡例 15
参考文献 21

動詞 …… 佐藤武義 71
敬語動詞 …… 杉崎一雄 110
形容詞 …… 西田直敏 132
形容動詞 …… 同 140
助動詞 …… 森野宗明 144
助詞 …… 吉田金彦 172
接辞 …… 滋野雅民 216
連語 …… 同 223

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com



古典を読むための

文法早わかり辞典

項目一覧

*略称は次の通りである。なお、原形でないものは、原形のあとに一字下げて掲げた。
名＝名詞　代名＝代名詞　副＝副詞　感動＝感動詞　連体＝連体詞　接続＝接続詞
動＝動詞　形＝形容詞　形動＝形容動詞　助動＝助動詞　助＝助詞　接尾＝接尾語
接頭＝接頭語

文法事項

あ行

言い切り……三七
イ音便……三一
已然形……三一
ウ音便……三一
受身の助動詞……三三
打消の助動詞……三三
婉曲表現……三九
遠称……三九
音便……三一
音便形……三一

か行

係り結び……三六
カ行変格活用……二九
格助詞……二四
過去(回想)の助動詞……二四
活用……二七
活用形……二七
可能の助動詞……三三
上一段活用……二八
上二段活用……二九
カリ活用……三〇
感動詞……三三
間投助詞……三五
完了の助動詞……二四
希望の助動詞……二四
基本形……三〇
切れ続き……三七
近称……三九
ク活用……二九
ク語法……四〇
敬語……四〇
形式名詞……二六
係助詞……三五
形容詞……二八
形容動詞……二八
謙譲語……四〇
呼応……三七
語幹……二四
コソアド……二六
語尾……二四
固有名詞……二五

さ行

再帰代名詞→反照代名詞
サ行変格活用……二九
詞……二五
辞……二五
シク活用……三〇
指示代名詞……二六
自称……二八
自動詞……二七
自発の助動詞……三三
事物代名詞→指示代名詞
下一段活用……二九
下二段活用……二九
終止形……三一
修飾格……二八
修飾語……二六
終助詞……三五
主格……三七
主語……二六
述格……二八
述語……二六
準体格……二八
準体助詞……三五
畳語……二四
上代特殊仮名遣い……四〇
助詞……二四
助動詞……三三
自立語……二四
推量の助動詞……三三
数詞……二五
接辞……三三
接続語……三七
接続詞……三三

接続助詞……三五
接頭語……三三
接尾語……二四
促音便……三三
尊敬語……四〇
尊敬の助動詞……三四
尊大語……四〇

た行

待遇表現……四〇
体言……二五
対称……三九
対象格……三八
代名詞……二五
他称……三九
他動詞……二七
タリ活用……三〇
単語・語……三三
断定(指定)の助動詞……三四
中止形……三一
中称……三九
陳述……三七
陳述副詞……三一
丁寧語……四〇
転成語……三三
伝聞・推定の助動詞……三四
同格……三八
動詞……二七
独立語……三六

な行

ナ行変格活用……二九
ナリ活用……三〇
人称代名詞(人代名詞)……二六

は行

派生語……三三
撥音便……三三
反語表現……三九
反照代名詞……二六
比況の助動詞……三四
被修飾語……三六
品詞……二四
複合語……三三
副語尾……三三
副詞……三三
副助詞……三五
付属語……二四
普通名詞……二六
不定称……三九
文……三三
文章……三三
文節……三三
並立格……三八
補助活用……二七
補助形容詞……二八
補助動詞……二八

ま行

未然形・否定形……三〇
名詞……三五
命令形……三一

や行

用言……二七
四段活用……二八

ら行

ラ行変格活用……二九
連語……三三
連体形……三一
連体詞……三三
連体修飾語……三六
連文節……三三
連用形……三〇
連用修飾語……三六

語集

あ

あ〈代名〉……四五
あかし(明し・赤し)〈形〉……一三三
あかす(明かす)〈動〉……七一
あかず〈連語〉……三三三
あかなくに〈連語〉……三三三
あからさまなり〈形動〉……一四〇
あく(明く・開く)〈動〉……七一
あく(飽く)〈動〉……七一
あくがる〈動〉……七一
あし〈形〉……一三三
あそばす(遊ばす)〈敬動〉……一一〇
あそぶ〈動〉……七一
あだし〈形〉……一三三
あたらし〈形〉……一三三
あつし(暑し・熱し・篤し)〈形〉……一三三
あなり・あんなり〈連語〉……三三三
あはれ〈感動〉……六九

あはれなり〈形動〉……一四〇
あひだ(間)〈名〉……四二
あふ(会ふ・逢ふ)〈動〉……七三
あべかめり〈連語〉……三二四
あべし・あんべし〈連語〉……三二四
あへなむ〈連語〉……三二四
あまり(余り)〈名〉……四二
あめり・あんめり〈連語〉……三二五
あらたし〈形〉……一三四
あらなくに〈連語〉……三二五
あらぬ〈連体〉……六一
あらはる〈動〉……七三
あらまほし〈形〉……一三四
あらゆる〈連体〉……六一
あり〈動〉……七三
ありし〈連体〉……六一
ありつる〈連体〉……六二
ある〈連体〉……六二
あるいは〈接続〉……六五
あれ〈代名〉……四五

い

い〈助〉……一七二
い〈接頭〉……二一六
い(寝)〈名〉……四三
いかが〈副〉……四九
いかで〈副〉……四九
いきほふ〈動〉……七四
いく(生く)〈動〉……七四
いこふ〈動〉……七五
いさ〈副〉……五〇
いさ・いさや〈感動〉……六九
いざ〈感動〉……六九
いざなふ〈動〉……七五
いたし〈形〉……一三四
いちじるし〈形〉……一三四
いちぢやう(一定)〈副〉……五一
いづ〈動〉……七五
いつくし〈形〉……一三五
いつしか〈副〉……五一
いづれ〈代名〉……四五
いと〈副〉……五一
いとど〈副〉……五一
いぬ(去ぬ・往ぬ)〈動〉……七六
いはく〈連語〉……三三五
いはゆる〈連体〉……六三
いはんや〈副〉……五二
いへども〈副〉……一七二
いへばえに〈連語〉……三三五
いまさうず〈敬動〉……二一〇
いまし〈代名〉……四六
います〈敬動〉……二一
いますがり(いますかり)・いまそがり(いまそかり)〈敬動〉……二一
いみじ〈形〉……一三五
いむ(忌む)〈動〉……七六
いる(射る・鋳る・沃る)〈動〉……七六

う

う〈助動〉……一四四
う(得)〈動〉……七七
うう(植う)〈動〉……七七
うかぶ〈動〉……七七
うく(浮く)〈動〉……七七
うく(受く)〈動〉……七八
うけたまはる(承る)〈敬動〉……二一二
うし〈形〉……一三五
うす(失す)〈動〉……七八
うず〈助動〉……一四四
うたてし〈形〉……一三五
うち〈接頭〉……二一六
うとむ〈動〉……七八
うべ・むべ〈副〉……五二
うれふ〈動〉……七九

え

え〈副〉……五二
えも〈連語〉……三二六
えやは〈連語〉……三二六

お

おい〈感動〉……七〇
おいて〈連語〉……三二六
おそる〈動〉……七九
おづ(怖づ)〈動〉……七九
おなじ〈形〉……一三六
おのれ〈代名〉……四六
おはさうず〈敬動〉……二一三
おはさふ〈敬動〉……二一三
おはします〈敬動〉……二一三
おはす〈敬動〉……二一四
おほかた〈副〉……五三
おほし(多し・大し)〈形〉……一三六
おぼしめす(思し召す)〈敬動〉……二一四
おほす(仰す)〈敬動〉……二一五
おぼす(思す)〈敬動〉……二一五
おほとのごもる(大殿籠る)〈敬動〉……二一六
おぼゆ〈動〉……八〇

おもはずなり〈形動〉……一四〇
おもほす(思ほす)〈敬動〉……一二六
おゆ(老ゆ)〈動〉……八〇
おんとのごもる(御殿籠る)
→おほとのごもる

か

か〈接頭〉……二二六
か〈助〉……一七三
か〈助〉……一七三
が〈助〉……一七四
かかり〈動〉……八〇
かぎり〈助〉……一七五
かくる(隠る)〈動〉……八〇
かけず〈連語〉……二三六
かけて〈副〉……五三
かけまく〈連語〉……二三六
かこつ〈動〉……八一
かざす〈動〉……八一
かし〈助〉……一七五
がたし〈接尾〉……二二八
かたぶく・かたむく(傾ぶく・傾く)〈動〉……八一
かたみに〈副〉……五三
がち〈接尾〉……二二八
かつ〈副〉……五四
かづく(潜く・被く)〈動〉……八二
かつて〈副〉……五四
かつは〈副〉……五四
かつましじ〈連語〉……二二七
かてに〈連語〉……二二七
がてら〈助〉……一七六
かな〈助〉……一七六
がな〈助〉……一七六
がに〈助〉……一七七
がね〈助〉……一七七
がはし〈接尾〉……二二八
かひ(効・甲斐)〈名〉……四三
かへりみる〈動〉……八三
がまし〈接尾〉……二二八
かも〈助〉……一七八
がも〈助〉……一七八
から〈助〉……一七八
がり〈接尾〉……二二九
かる(枯る・離る・狩る・借る)〈動〉……八三
がる〈接尾〉……二二九
かれ〈接続〉……六五
かんがみる〈動〉……八四

き

き〈助動〉……一四四
せば……一四五
きこえさす(聞こえさす)〈敬動〉……一二七
きこしめす(聞こし召す)〈敬動〉……一二七
きこす(聞こす)〈敬動〉……一二七
きこゆ〈動〉……八四
きたる〈動〉……八四
きむぢ・きんぢ〈代名〉……四六
きゆ〈動〉……八四
きる(着る)〈動〉……八五
きる(着る)〈動〉……八五

く

く(来)〈動〉……八五
くし(奇し)〈形〉……一三六
ぐす(具す)〈動〉……八六
くつ(朽つ)〈動〉……八六
くゆ(悔ゆ)〈動〉……八六
くる(暮る)〈動〉……八七
くる(繰る)〈動〉……八七

け

け〈接頭〉……二二七
げ〈接尾〉……二二九
けいす(啓す)〈敬動〉……一二八
けし(異し・怪し)〈形〉……一三六
けしからず〈連語〉……三二七
けそうなり(顕証なり)〈形動〉……一四一
けつ(消つ)〈動〉……八七
けに〈副〉……五五
げに〈副〉……五五
けむ・けん〈助動〉……一四五
けまく……一四六
けり〈助動〉……一四六
けらく……一四七
けらし……一四七
ける(蹴る)〈動〉……八七

こ

こうず(困す)〈動〉……八八
ここころみる〈動〉……八八
ござんなれ・ござんめれ〈連語〉……三二八
こす〈助動〉……一四七
こそ〈助〉……一七九
こと(事)〈名〉……四三
ごとし〈助動〉……一四八
ごと……一四八
ごとくなり……一四八
こふ(恋ふ)〈動〉……八八

ごらんず（御覧ず）〈敬動〉…一一八

さ

さ〈副〉……五五
さ〈接頭〉……二二七
さ〈接尾〉……二一九
さうぞく（装束く）〈動〉……八八
さうらふ・さぶらふ（候ふ）〈敬動〉……一一八
さきはふ〈動〉……八八
さく（離く・放く）〈動〉……八九
さしたる〈連体〉……六三
さしも〈連語〉……二二八
さす〈助動〉……一四九
させる〈連体〉……六三
さだたり（蹉跎たり）〈形動〉……一四一
さて〈接続〉……六五
さては〈接続〉……六六
さても〈接続〉……六六
さながら〈副〉……五六
さはれ〈感動〉……七〇
さへ〈助〉……一八〇
さま（様）〈名〉……四三
さらず〈連語〉……三八
さらなり〈形動〉……一四一
さらに〈副〉……五六
さらぬ〈連語〉……二二八
さらば〈接続〉……六六
ざり〈連語〉……二三〇
さりながら〈接続〉……六六
さりぬべき〈連語〉……二二九
さるは〈接続〉……六六
さるべき〈連語〉……二二九
さるほどに〈接続〉……六七
さるまじき〈連語〉……二二九
されど〈接続〉……六七
されば〈接続〉……六七
さんぬる〈連体〉……六三

し

し〈助〉……一八〇
し（其）〈代名〉……四六
じ〈助動〉……一四九
しか〈副〉……五七
しか〈助〉……一八〇
しが〈助〉……一八一
しかしながら〈副〉……五七
しかり（然り）〈動〉……八九
しく（及く）〈動〉……八九
しぐる（時雨る）〈動〉……八九
して〈助〉……一八一
しぬ〈動〉……九〇
しのふ・しのぶ（思ふ）〈動〉……九〇
しのぶ（忍ぶ）〈動〉……九〇
しふ（強ふ）〈動〉……九〇
しふねし〈形〉……三七
しむ〈助動〉……一五〇
しむ（染む・浸む）〈動〉……九一
しも〈助〉……一八二
しらに〈連語〉……二三〇
しる（知る）〈動〉……九一
しろしめす（知ろし召す）〈敬動〉……一一九

す

す〈動〉……九二
す（四段活用型）〈助動〉……一五〇
す（下二段活用型）〈助動〉……一五一
ず〈助動〉……一五一
ざなり……一五二
ずけり……一五二
ずは・ずば……一五二
すう（据う）〈動〉……九二
すぐ（過ぐ）〈動〉……九二
すぐす（過ぐす）〈動〉……九二
すさむ〈動〉……九三
ずす（誦す）・ずんず〈動〉……九三
すずろなり〈形動〉……一四一
すつ（捨つ・棄つ）〈動〉……九三
すべからく〈副〉……五七
すべて〈副〉……五八
すら〈助〉……一八二

せ

せく（塞く）〈動〉……九四
せし（狭し）〈形〉……三七
せちなり・せつなり〈形動〉……一四二

そ

そ〈助〉……一八三
ぞ・そ〈助〉……一八三
そうす（奏す）〈敬動〉……一一九
そぞろなり〈形動〉……一四二
そふ（添ふ・副ふ）〈動〉……九四
そむ（染む）〈動〉……九四
そら〈助〉……一八四

た

た〈接頭〉……二二七
たいまつる（奉る）〈敬動〉……一二〇
たうぶ（賜うぶ・食うぶ）〈敬動〉……一二〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

たえて〈副〉……五八
たがふ(違ふ)〈動〉……九五
たし〈助動〉……一五三
たち〈接頭〉……二一七
たつ(立つ)〈動〉……九五
たつ(断つ・絶つ・裁つ)〈動〉……九五
だつ〈接尾〉……二一〇
たてまつる(奉る)〈敬動〉……二一〇
だに〈助〉……一八四
たのむ〈動〉……九六
たばす(賜ばす)〈敬動〉……二二
たぶ(賜ぶ)〈敬動〉……二二
たまはす(賜はす)〈敬動〉……二二
たまはる(賜はる)〈敬動〉……二二
たまふ(賜ふ・給ふ)〈敬動〉……二二
だも〈助〉……一八五
たゆ(絶ゆ)〈動〉……九六
たり〈助動〉……一五三
たなり……一五三
たりけり……一五四
たり〈助動〉……一五四
たる(足る)〈動〉……九六
たわむ〈動〉……九六

つ

つ〈助〉……一八五
つ〈助動〉……一五四
てき……一五五
てけり……一五五
てまし……一五五
てむ……一五五
てよ……一五六
てんげり……一五六
つかはす(遣はす)〈敬動〉……二二
つかふ(仕ふ)〈敬動〉……二四
つかへまつる(仕へまつる)・つかうまつる(仕うまつる)〈敬動〉……二四
つかまつる(仕る)〈敬動〉……二四
つく(付く)〈動〉……九七
つく(尽く)〈動〉……九七
つつ〈助〉……一八五
づつ〈助〉……一八六
つゆ〈副〉……五八

て

て〈助〉……一八六
で〈助〉……一八七
で〈助〉……一八七
でう(条)〈名〉……四三
てうず(調ず)〈動〉……九七
てしか〈助〉……一八八
てふ・ちふ・とふ〈連語〉……二三〇

と

と〈助〉……一八八
ど〈助〉……一八九
とく(解く・溶く・融く)〈動〉……九七
とし(疾し・鋭し・利し・敏し)〈形〉……二三七
とづ(閉づ)〈動〉……九八
とて〈助〉……一九〇
とも〈助〉……一九〇
ども〈助〉……一九一
ともなふ〈動〉……九八

な

な〈助〉……一九一
ながむ〈動〉……九八
ながら〈助〉……一九二
なく〈連語〉……二三〇
なぐさむ〈動〉……九九
なし(無し)〈形〉……二三七
なす〈接尾〉……二三〇
なす(為す・生す)〈動〉……九九
なす(寝す)〈動〉……九九
な——そ〈助〉……一九三
なでふ・なんでふ〈連体〉……六四
なでふ・なんでふ〈副〉……五八
など〈助〉……一九四
なふ〈助動〉……一五六
なへ〈助〉……一九四
なむ・なん〈助動〉……一五八
なむ・なん〈助〉……一九五
なめし〈形〉……二三八
なも〈助〉……一九五
ならぶ〈動〉……一〇〇
なり〈助動〉……一五七
なり〈助動〉……一五六
に……一五七
なれ〈代名〉……四七
なんぢ・なむぢ〈代名〉……四七

に

に〈助〉……一九六
にして……一九七
にて〈助〉……一九八

ぬ

ぬ(寝)〈動〉……一〇〇

ぬ〈助動〉……一五八
なむ・なん……一五八
にき……一五九
にけり……一五九
にし……一五九
ぬべし……一五八

ね

ね〈助〉……一九八
ねんず(念ず)〈動〉……一〇〇

の

の〈助〉……一九九
のたまはす(宣はす)〈敬動〉……一二五
のたまふ(宣ふ)〈敬動〉……一二五
のみ〈助〉……一〇〇

は

は〈助〉……一〇〇
はも……一〇二
はや……一〇二
ば〈助〉……二〇二
ばかり〈助〉……二〇三
はぐくむ〈動〉……一〇〇
はし(愛し)〈形〉……一三八
ばし〈助〉……二〇四
はつ(果つ)〈動〉……一〇〇
はづ(恥づ)〈動〉……一〇一
はづかし〈形〉……一三八
はづかしげなり〈形動〉……一四二
はべり(侍り)〈敬動〉……一二五
はむ(食む)〈動〉……一〇一
ばむ〈接尾〉……二二〇
ばや〈助〉……二〇四

ひ

ひつ(潰つ)〈動〉……一〇一
ひる(干る)〈動〉……一〇一

ふ

ふ〈助動〉……一五九
ふ(経)〈動〉……一〇一
ぶ〈接尾〉……二二一
ふかし〈形〉……一三八
ふす(伏す・臥す)〈動〉……一〇一
ふる(古る・旧る)〈動〉……一〇二
ふる(触る)〈動〉……一〇二

へ

へ〈助〉……二〇五
べし〈助動〉……一六〇
べい……一六一
べう……一六一
べかなり……一六一
べかめり……一六一
べからず……一六一
べけむ……一六一
べみ……一六一
べらなり〈助動〉……一六二

ほ

ほし(欲し)〈形〉……一三八
ほど(程)〈名〉……四四
ほどに〈助〉……二〇五

ま

まうし〈助動〉……一六二
まうす・まをす(申す)〈敬動〉……一二六
まうづ(参づ・詣づ)〈敬動〉……一二七
まかづ〈敬動〉……一二七
まかる(罷る)〈敬動〉……一二七
まく〈助動〉……一六六
まし〈助動〉……一六二
ましかば……一六三
ませば……一六三
まじ〈助動〉……一六三
ましじ〈助動〉……一六四
ます(坐します)〈敬動〉……一二八
ます(坐す)〈敬動〉……一二八
また〈接続〉……六八
まつる〈敬動〉……一二九
まで〈助〉……二〇五
まほし〈助動〉……一六四
まほしがる……一六五
まみゆ(見ゆ)〈敬動〉……一二九
まゐらす(参らす)〈敬動〉……一二九
まゐる(参る)〈敬動〉……一二九

み

み〈接尾〉……二二一
みそなはす(見そなはす)〈敬動〉……一三〇
みだる〈動〉……一〇二
みつ(満つ)〈動〉……一〇三
みづから〈代名〉……四七
みゆ〈動〉……一〇三
みる〈動〉……一〇四

む

む・ん〈助動〉……一六五

まく……一六六
むくふ(報ふ)〈動〉……一〇四
むくゆ(報ゆ)〈動〉……一〇四
むげなり〈形動〉……一四二
むず・んず〈助動〉……一六六
むせぶ〈動〉……一〇四
むた(共)〈名〉……四四

め

めく〈接尾〉……三二
めす(見す・召す)〈敬動〉……一三〇
めづ〈動〉……一〇五
めり〈助動〉……一六六

も

も〈助〉……一〇六
もこそ……一〇七
もぞ……一〇七
もが〈助〉……一〇七
もたり(持たり)〈動〉……一〇五
もちふ(用ふ)〈動〉……一〇五
もちゐる(用ゐる)〈動〉……一〇五
もの〈接頭〉……二一七
ものから〈助〉……一〇八
ものす〈動〉……一〇五
ものの〈助〉……一〇八
ものゆゑ〈助〉……一〇九
ものを〈助〉……一〇九
もみつ・もみづ〈動〉……一〇六

や

や〈助〉……一〇九
やは……二一
やも……二一
やうなり〈助動〉……一六七
やぶる(破る)〈動〉……一〇六
やや〈接助〉……七〇

ゆ

ゆ〈助動〉……一六七
ゆ〈助〉……二一
ゆふ(結ふ)〈動〉……一〇六
ゆめ・ゆめゆめ〈副〉……五九
ゆり〈助〉……二一

よ

よ〈助〉……二二
よし(由)〈名〉……四四
よに〈副〉……五九
よも〈副〉……六〇
より〈助〉……二二

ら

らうらうじ(労々し)〈形〉……一三九
らし〈助動〉……一六八
らむ・らん〈助動〉……一六八
らゆ〈助動〉……一六九
らる〈助動〉……一七〇

り

り〈助動〉……一七〇
りんりんたり(凜々たり)〈形動〉……一四三

る

る〈助動〉……一七一

れ

れいの〈連語〉……二三〇

わ

わ〈代名〉……四七
わく(分く)〈動〉……一〇七
わする〈動〉……一〇七
われ〈代名〉……四七
わろし〈形〉……一三九

ゐ

ゐる(居る・率る)〈動〉……一〇七

ゑ

ゑ〈助〉……二二三
ゑふ(酔ふ)〈動〉……一〇八
ゑんず(怨ず)〈動〉……一〇八

を

を〈助〉……二二三
をさをさ〈副〉……六〇
をし(愛し・惜し)〈形〉……一三九
をふ(終ふ)〈動〉……一〇八
をり(居り)〈動〉……一〇八

『古典を読むための文法早わかり辞典』を活用される人々のために

＊　＊　＊

古典を理解し、その独特なおもしろみを味わうのに欠くことのできないのは、古典文法の知識を身につけることである。

ところが、一般に用いられている文法教科書などは、ことばの法則について概括的な説明はなされているけれども、それが、古典解釈に実際的、具体的に結びついて役に立つかというと、そうではない。それは、ことばの成立や変遷などの語誌的な解説もなく、また、語意と法則との緊密なつながりについても、ほとんど触れずに、概括的な説明に終わっているからである。

また一方、程度の高い文法研究書になると、自説の提唱や特殊な領域の専門的論説などが中心になっていて、一般的な古典読者には不向きである。

この辞典は、そういう点を配慮して、古典解釈にどうしても必要で、しかも、実際に役立つと思われる文法的な重要語彙と文法事項六五〇を選んで、具体的な解説を施したものである。古典を愛好する一般読者はもとより、特に高校で古典教育の指導にあたる方々、大学国文科で古典を研究する学生諸君は、本書ることによって、指導上、学習上の効果を十分あげると確信する。

およそ学問には、学説上の違いがあって、られないものである。文法においても、『　　象につい て違った見解が出されることが往々ある。それ　　まえた上で、一般に妥当とされている見解を基本に据　　、適切と思われる最新の見解をも大胆に取り入れて、　　つの特色を持つと自負している。

特に【留意点】はこの辞典の一つの眼目　　、ここでは、右に述べた学説上の違いの説明はもとより、　　に古典の授業や学習の折に疑問の出るような、基礎的、具体的な問題点を取り上げて解説を加えている。たとえば、

(1) 初学者が誤解・誤認しやすいと思われる事柄
(2) 文法的事実の認定に誤解が起こりやすい場合（品詞設定や接続関係など）
(3) 解釈上の疑義が生じやすいところ
(4) 例外的な文法現象や、慣例に合わないような事項
(5) 文法的な扱いの変化

などがそれである。

また、辞典の形式をとっているので、初めから順を追って読み進める必要はない。どのページを開いても、ことばとその法則が簡潔明快に解説されており、一読して疑問は解け、不確実だった点を明らかにすることができるだろう。「早わかり」と銘を打った理由もここにあるのである。

◇凡　例◇

一、はじめに文法事項で、文法概念、用語の解説を掲げた。語彙項目は品詞別にした。

一、いわゆる十一品詞のほか、別に敬語動詞、接辞、連語の章を設け、十四章の章立てとした。語彙項目はこの十四章それぞれの中で、表記による五十音順に配列した。

一、見出し語の表記は歴史的仮名遣いによった。

一、【語誌】は、語源、語構成、語の変遷などを簡略に記した。

一、【留意点】は、この辞典のポイントとなるもので、学説が異なる場合、品詞設定、接続等誤解が起こりやすい場合、例外的な文法現象などについて、具体的な解説を加えた（『古典を読むための文法早わかり辞典』を活用する人々へ」一四頁参照）。

一、活用語にはすべて【活用】を付した。活用は未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の順に中グロでつなぎ、活用がない場合は〇、二つ以上ある場合は／で並列した。用例の極めて少ないものは（　）を付した。

一、活用の種類は、簡略化するため左のような略称を用いた。

自動＝自動詞　　上二＝上二段活用
他動＝他動詞　　下一＝下一段活用
四＝四段活用　　下二＝下二段活用
上一＝上一段活用　　カ変＝カ行変格活用
サ変＝サ行変格活用　　ナリ活＝ナリ活用
ナ変＝ナ行変格活用　　ク活＝ク活用
ラ変＝ラ行変格活用　　シク活＝シク活用
タリ活＝タリ活用

一、用例は、出典の明確なものを掲げたが、簡略化するため出典は原則として左のように略称した。

記＝古事記　　狭衣＝狭衣物語　　保元＝保元物語
紀＝日本書紀　　堤＝堤中納言物語　　平治＝平治物語
万葉＝万葉集　　栄花＝栄花物語　　平家＝平家物語
竹取＝竹取物語　　今昔＝今昔物語集　　太＝太平記
伊勢＝伊勢物語　　枕＝枕草子　　新古今＝新古今和歌集
大和＝大和物語　　土佐＝土佐日記
宇津保＝宇津保物語　　蜻蛉＝蜻蛉日記　　八犬伝＝南総里見八犬伝
落窪＝落窪物語　　更級＝更級日記
源氏＝源氏物語　　古今＝古今和歌集　　膝栗毛＝東海道中膝栗毛
なお、高校教科書等に頻出する、源氏物語、枕草子、徒然草は、それぞれ巻名、段数を示した。（原則として岩波古典大系による。）　　拾遺＝拾遺和歌集

一、助動詞は、重要と思われるものは、原形でない、終止形以外の活用形や、複合の助動詞なども掲げてある。派生するものなので、原形のあとに、見出しに＊を付して掲げた。

一、助詞は、派生して生じる複合の助詞も、原形のあとに＊を付して掲げた。

一、関連項目は⇩を用いて示した。

文語文法から古典文法へ

——文法上許容すべき事項をめぐって——

松村　明

古文の文法は、また、文語文法とも古典文法ともいわれる。今日、この種の文法の学習が学校教育において重視されるのは、古典としての古文を正しく読解するためには、古文についての文法上の知識が前提となると考えられるからであるが、この場合、文語文法でも古典文法でも、それは呼称の違いだけで、内容的にはほぼ同一のものを指していると考えられる。ところで、古典文法という呼称は、戦後の新しい国語教育の展開とともに一般に用いられるようになったものであるが、文語文法という呼称は戦前からあるもので、明治、大正、昭和前期を通じてずっと広く用いられている。もっとも、文語文法という場合に、戦前のものと戦後のものとでは、内容的にかなりはっきりした違いが見られるのである。戦後においては、それは、古典を読解する上での基礎的知識として扱われるわけであるが、戦前においては、一方で、もちろん、古典読解のための基礎的知識ということが考えられているが、同時に、それは、文語文を書くための基本的なきまりとして考えられていた。文語文としてのことばのきまりの基本であり、文語文はそのきまりに従って書かるべきものというように考えられていたのである。

明治後期から大正、昭和前期まで、いわゆる文語文法のこのような性格を端的に示しているものとして、「文法上許容ニ関スル事項」あるいは「文法上許容スベキ事項」といわれるものがある。これは、戦前までの学校教育では、文語文法に必ず出てくるもので、広く知られていたのであるが、戦後の文語文法では、それが古典の読解のためのものとして扱われるようになったせいか、ほとんど取り

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com